



# ホッカンホールディングス株式会社 2020年度 決算説明会資料

2021年6月4日

## 経営成績



単位:百万円

	2020年度 通期実績	2019年度 通期実績	前期比	2020年度 業績予想 (2021年4月28日)	公表比
売上高	109,367	127,741	-14.4%	109,300	+0.1%
営業利益	759	6,333	-88.0%	800	-5.1%
経常利益	2,112	4,464	-52.7%	2,100	+0.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (又は当期純損失)	-368	1,968	-	-300	-
自己資本当期純利益率	-0.7%	3.7%	-	-	-

■ **売上高**：新型コロナウイルス感染症の影響により、全セグメントにおいて売上高減少

- 大型ペットボトル製品 巣ごもり需要により堅調
- 塗料製品など ホビー需要等により好調
- 燃料ボンベ缶 災害備蓄に対する意識の高まりにより好調
- 食品用PETボトル 当社の開発した技術が受け入れられ好調

▲主力事業である小型PETボトル製品、飲料用空缶、飲料用PET製品等  
インバウンド需要の蒸発と観光関連需要の大幅な減少、  
テレワークなど外出を避ける行動様式の広がりなどを受け、大きく減少

■ **営業利益**：中期経営計画「FUTURE-5」において行ってきた取り組みにより  
収益性のポテンシャルは高まり、加えて固定費の削減に努めたが、  
売上高減少を補うには至らず、前年比約9割減

■ **経常利益**：持分法による投資利益6億71百万円を計上するなど、  
営業外収益を18億58百万円計上  
(前年度は持分法投資利益損失21億15百万円を計上)

■ **親会社株主に帰属する当期純損失**：

- 特別利益 投資有価証券売却益7億47百万円を計上
- ▲特別損失 北海製罐株式会社における事業用設備の減損損失、  
固定資産除却損等、計29億56百万円を計上

連結売上高および営業損益

単位:百万円

	売上高			営業損益		
	2020年度	2019年度	前期比	2020年度	2019年度	前期比
容器事業	35,237	40,535	-13.1%	-224	429	-
充填事業	60,587	71,540	-15.3%	2,458	6,416	-61.7%
機械製作事業	2,914	3,127	-6.8%	51	299	-82.8%
海外事業	8,547	10,033	-14.8%	23	400	-94.1%
その他	2,079	2,503	-16.9%	-48	-15	-
調整(含 グループ内取引)	-	-	-	-1,500	-1,196	-
合計	109,367	127,741	-14.4%	759	6,333	-88.0%

■ **メタル缶**

- ・ **飲料用スチール空缶** 前年を大幅に下回る
  - ▲ 外出を避ける行動様式→自販機・コンビニ販売減少
- ・ **食品缶詰用空缶**
  - 水産缶詰：前年を下回る
    - ▲ サケ、サンマなどの記録的な不漁による原料不足
  - 農産缶詰：前年を下回る
- ・ **エアゾール用空缶** 全体としては前年を上回る
  - ▲ 消臭芳香剤等の販売減少
  - 燃料ボンベ缶、塗料製品(ホビー需要等)の販売 好調に推移
  - 主力の殺虫剤関連製品 堅調に推移
- ・ **美術缶** 前年を下回る
  - ▲ 菓子、海苔などの贈答向け製品が大幅に減少

■ **プラスチック容器** 前年を大きく下回る

- ・ **飲料用PETボトル（プリフォームを含む）**
  - ▲ 主力の小型PETボトル 消費者の需要が大型PETボトルにシフトし減少
  - ▲ 加温用プリフォーム 暖冬の影響を受けて販売減少
- ・ **食品用ペットボトル** 前年を大きく上回る
  - リサイクルが可能なPET素材の二重構造バリアボトル 好調に推移

■ **その他プラスチック製容器包装**

- ▲ 外出を避ける動き→化粧品向け製品 大きく減少
- ▲ 外食産業向けやコンビニエンスストア向け飲料用バッグインボックス 低迷

**充填事業**

■ **缶製品**

- ・ **リシール缶（ボトル缶）** 前年を大幅に下回る
  - ▲ 外出を避ける動き→自販機・コンビニ販売低調
- ・ **通常缶** 売上高では前年を上回る
  - ▲ 市場動向と同様に販売は低調
  - 充填委託元からの受託構成比率

■ **PETボトル製品** 前年を下回る

- ミネラルウォーター等の大型PETボトル製品 外出を避ける動き→増加
- ▲ 主力の小型PETボトル製品 自販機・コンビニ販売低調

**機械製作事業** 前年を下回る

- ▲ 新型コロナウイルス感染症の影響→設備投資を手控える動きが広がり、自動車部品にかかる生産設備、金型などの受注が減少

## 海外事業

### ■ インドネシア

▲大規模な社会活動制限の影響により、個人消費や企業活動が大幅に抑制  
→飲料水や清涼飲料の需要が落ち込む

- ・ **ホッカン・デルタパック・インダストリ社** 前年を下回る
- ・ **ホッカン・インドネシア社** 売上高は前年を下回る  
○新製品受注や固定費削減等により、営業利益は前年を上回る

### ■ ベトナム

▲観光客の減少、飲食店の営業制限、外出自粛などの影響  
→飲料消費が落ち込む

- ・ **日本キャンパック・ベトナム社** 前年を大幅に下回る  
一部のお客様による内製化の影響等

## その他

### ■ 化粧品事業 前年を大きく下回る

○新たなお客様との取引開始

▲インバウンド需要の蒸発や外出機会の減少などの影響

### ■ 株式会社真喜食品の株式取得（2021年2月1日付）

株式会社日本キャンパックが、株式会社真喜食品の株式の全部を取得  
当社の連結子会社とした

#### ■ 株式会社真喜食品の概要

- 所在地 : 新潟県新潟市
- 事業内容 : 食品製造販売
- 資本金 : 10百万円
- 設立日 : 1977（昭和52）年4月30日
- 主要製品 : 小袋スープ、健康食品

### ■ 子会社間の吸収合併（2021年3月決議 効力発生日2021年7月1日）

- 北海製罐株式会社が、子会社の日東製器株式会社を吸収合併
- 株式会社日本キャンパックが、子会社の株式会社西日本キャンパックを吸収合併

#### ● 実施目的

組織・指揮命令系統・社内制度等の統一統合による経営・業務の効率化や、各社間の人材の流動化による組織の活性化を実現することにより、グループ企業価値を向上するため

基本戦略	概要	期間中の実績
1. 事業構造の転換	今後の成長事業分野へ、積極的に経営資源配分を実施する。また、不採算事業に対しては個別の対策検討をおこない、具体的な施策を展開・実行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成長事業分野への経営資源配分</li> <li>・アセプティック（無菌充填）ラインの導入 ⇒株式会社西日本キャンパック1ライン導入済 株式会社日本キャンパック1ライン稼働予定</li> <li>・ヘルスケア事業部立上げ（株式会社日本キャンパック） ⇒ヘルスケア領域への進出を図る 実績：軟包材を用いた熱中症対策製品</li> <li>●不採算事業の個別検討</li> <li>・小樽工場の食缶、飲料缶、美術缶製造見直し ⇒・利益を見込めるラインに生産集約 ・人員の再配置 ・一部缶製品ラインを小樽工場に移管</li> </ul>
2. 海外事業の展開	東南アジア市場の伸長を、当社グループの成長エンジンとして取り込み、飲料充填事業を基幹として、グループの総合力を活かしながら事業展開を加速させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシアに飲料用パッケージ製造会社 PT. HOKKAN DELTAPACK INDUSTRI社を設立（2018年3Q 事業開始2019年1Q） ⇒事業セグメント「海外事業」を追加（2019年度）</li> </ul>
3. 新規事業の創出	既存事業を基盤として、グループとしてのシナジーを効かせ、アライアンスやM&Aを活用しながら、新たな基柱となる事業を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の受託製造を営む株式会社真喜食品を連結子会社化（2020年4Q）</li> </ul>

	2017年度 実績	2018年度		2019年度		2020年度	
		計画	実績	計画	実績	計画	実績
売上高	1,192億円	1,240億円	1,287億円	1,220億円	1,277億円	1,250億円	1,093億円
営業利益	51億円	55億円	61億円	65億円	63億円	75億円	7億円
営業利益率	4.3%	4.4%	4.8%	5.3%	5.0%	6.0%	0.7%
有利子負債	430億円	555億円	539億円	613億円	535億円	526億円	583億円
純資産	550億円	584億円	579億円	623億円	551億円	673億円	572億円
DEレシオ	0.8倍	1.0倍	0.9倍	1.0倍	1.0倍	0.8倍	1.0倍
ROE	8.3%	6.9%	2.1%	7.5%	3.7%	8.5%	-0.7%
自己資本比率	39.1%	37.1%	34.9%	37.3%	36.0%	41.3%	36.7%

※為替前提条件：計画値について、2018年度は110円/ドル、2019年、2020年度は115円/ドルで設定

※為替感応度について：FUTURE-5開始時においては、為替が1円/ドル変化した場合の利益に与える影響は約100百万円とされていたが、その後の取引形態の変更により、2020年度においては約20百万円程度。  
(円安で減益、円高で増益の効果)

単位:百万円

	2021年度 業績予想	2020年度 実績	前期比
売上高	86,000	109,367	-
営業利益	2,300	759	+202.9%
経常利益	2,800	2,112	+32.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,300	-368	-

- 当期首より、「収益認識に関する会計基準」等を適用するため、2021年度業績予想は当該会計基準を適用した後の金額となっている  
このため、売上高については前期比を記載していない
- 売上高：新しい行動様式のもとで活動が再開されつつある  
⇒徐々に需要が回復してくることも想定される  
インバウンド需要は未だ見通し立たず、予断を許さない
- 営業利益：新規顧客開拓による販路の拡大や経費削減等により、収益の確保に努める
- 経常利益：営業外収益に持分法投資利益の計上を見込む  
(前年度は持分法投資利益6億71百万円を計上)
- 親会社株主に帰属する当期純利益：特別損失の減少により大幅増益を見込む

## 連結設備投資

単位:百万円

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
設備投資	12,459	18,330	9,676	7,128	7,480
減価償却費	6,504	7,372	8,039	7,789	7,341

## 2020年度 実績

- 容器事業：二重構造バリアボトルの高速製造設備等 12億円
- 充填事業：アセプティック（無菌充填）ライン導入等 51億円
- 海外事業：飲料用パッケージ製造設備等 4億円

## 2021年度 予算

- 容器事業：各種食品ボトル製造設備等 16億円
- 充填事業：アセプティック（無菌充填）ライン導入等 44億円
- 海外事業：飲料用パッケージ製造設備等 7億円

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度予想
1株当たり 配当金	8.5円	※ 42.5円	45.0円	32.25円	中間 23.00円 期末 22.00円
配当性向	12.2%	45.0%	27.9%	—	42.2%

※2018年10月1日付で当社普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施したため、株式併合後の基準で換算した場合の金額を記載しています。

### 配当に関する基本方針

剰余金の配当につきましては、中長期的な株主価値向上を図る観点から、成長戦略および財務の健全性強化のための内部留保の充実を勘案しつつ、株主の皆様への利益還元を最大限に考え、バランスを考慮した配当とすることを基本方針としております。

2020年度の期末配当金につきましては、当期業績および新型コロナウイルス感染拡大の影響等による未確定な要素などを踏まえ、今後の経営環境等も総合的に勘案しました結果、3月30日公表のとおり、誠に遺憾ながら、前期実績から12円75銭減配し、1株当たり13円50銭（年間配当金額32.25円）と決定いたしました。（支払開始日：6月8日予定）

## 次期中期経営計画の策定延期 (2022年度から開始)

これに先立ち、創立100周年を迎える  
当社グループが拠って立つ規範として策定

- ・ 経営理念
- ・ ビジョン
- ・ サステナビリティ基本方針
- ・ 全社戦略



## 経営理念

**開拓者精神をもって、成長のために飽くなき挑戦をし続け、お客様と共に、社会から必要とされる製品を提供していく。**

### 開拓者精神とは？

自発性と創造性をもって、  
新しいものづくりに勇猛果敢に立ち向かっていく精神

## ビジョン

1. 我々は、お取引先様から、また社会から強く必要とされる存在であるため、常に社会的責任を明確にすると共に、各事業分野において「この点がNo.1」と言いきれる明確な特長を持った製品サービスを開発、提供します。
2. 我々の製品、サービスを世界中の人々へ提供できるよう、新たな事業拠点の設立を積極的に進めてまいります。
3. 我々は国籍、性別、年齢に関係なく、事業に貢献する人を正當に評価する、フェアな企業集団であり続けます。



## サステナビリティ基本方針

1. 労働者の権利を含む人権を尊重し、差別・ハラスメントを許しません
2. 役職員の安全および健康を確保し、働きがいのある会社を目指します
3. 法令を遵守し、公正取引・腐敗防止、反社会的勢力の排除に取り組みます
4. 持続可能な地球環境の実現に向けて取り組みます
5. 顧客満足度の高い製品・サービスを開発し、製品安全および品質の確保に努めます
6. 情報資産の管理・活用を徹底し、適正な開示を行います
7. 地域社会と調和し、社会の幸福に資する活動に取り組みます
8. ステークホルダーと真摯に対話し、活動状況を監督します

(全文は <http://www.hokkanholdings.co.jp/csr/policy.shtml> をご参照ください。)

## 全社戦略

1. 人的資源の最適化  
成長の源泉である人的資源を最適化するために、適切な人事制度、教育制度の確立と、価値創出に貢献できる人材確保のための積極的な投資を行います。
2. 国内事業の再編  
稼ぐ力＝お客様へ高い価値を提供できるか否かを最重要視し、事業の取捨選択に取り組みます。
3. 海外事業の拡大  
東南アジア諸国を中心とした新興国への事業投資をこれまで以上に加速させ、事業規模、利益の拡大を目指します。
4. 新規事業開発  
M&Aを積極的に活用し国内、海外問わず、当社グループの知見を活かし得る新たな事業領域へ進出して参ります。

# 注意事項

---



当資料は、投資家の皆様にホッカンホールディングス株式会社への理解を深めていただくことを目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。

以下の点をご了解の上、ご覧ください。

- ・業績見通し等は作成時点において、当社が予測しうる範囲内で作成したものです。
- ・記載の業績見通し等とは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおりますことをご承知ください。
- ・投資に関する決定は投資家ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- ・掲載内容について細心の注意を払っておりますが、不可抗力によって情報に誤りを生ずる可能性もございますので、ご注意下さい。

お問合せ先：

ホッカンホールディングス株式会社

取締役 砂廣 俊明

TEL：03-3213-5111

---